

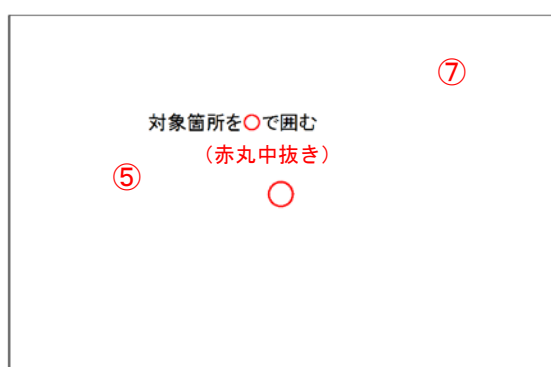
参考資料-5 調書作成のチェック ポイント

表紙 位置、位置図

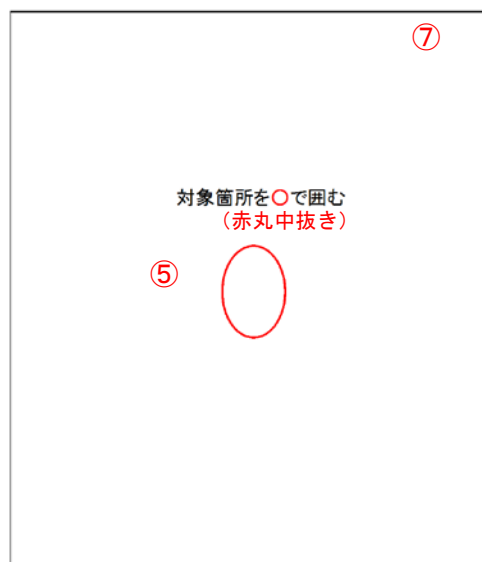
土砂災害防止に関する基礎調査(地滑り)

表紙 位置、位置図

自然現象の種類	① 地滑り
箇所番号	② ○○○
箇所名	③ ○○○
所在地	④ 千葉県〇〇市〇〇
調査機関	千葉県〇〇土木事務所



位置図(S=1:200,000)



位置図(S=1:25,000)

⑥

⑥

千葉県

チェックポイント

- ①自然現象の種類が「地滑り」と記載されている。(土砂災害防止法においては、「地すべり」ではない)
- ②箇所番号が正しく記載されている。
- ③箇所名が正しく記載されている。
- ④所在地が正確に記載されている。(大字・字のあり・なし、漢字等)
- ⑤左右の位置図に調査対象範囲が正しく示されている。
- ⑥左右の位置図と縮尺の整合がとれている。
- ⑦方位が明示されている。

なお、チェックポイントで、特に間違いやすいあるいは着目する項目等にはアンダーラインを記す。

様式 1-1 公示履歴等

地 滑 り 区 域 調 査

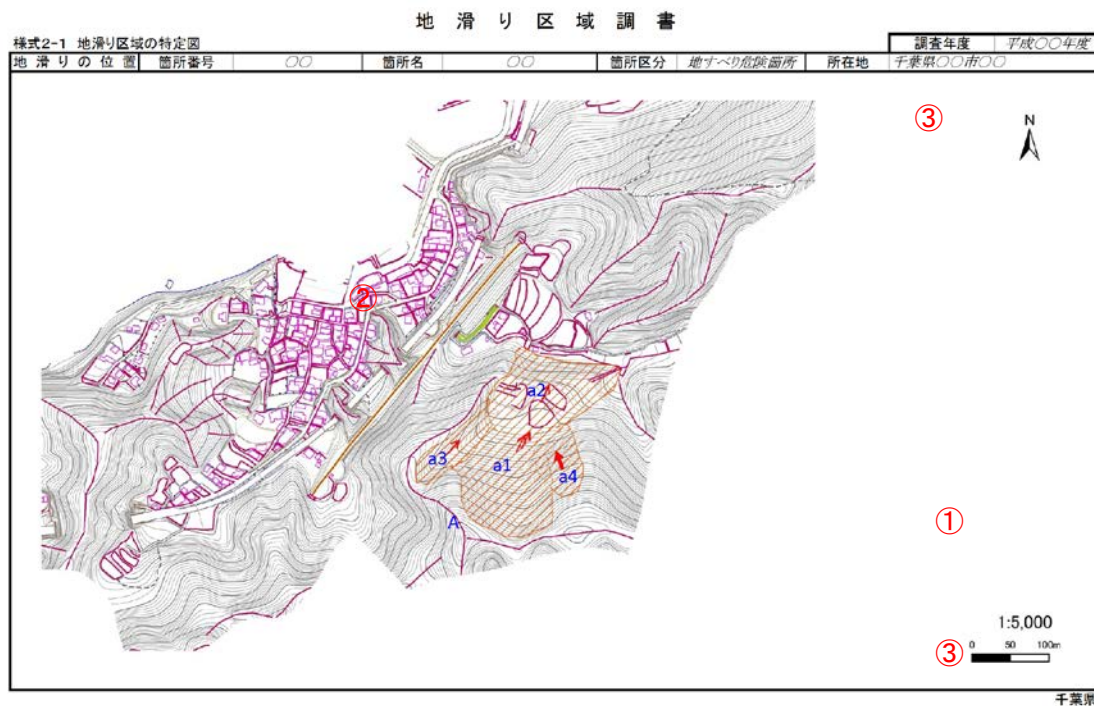
様式 1-1 公示履歴等					調査年度 平成〇〇年度
地 滑 り の 位 置		箇所番号 〇〇〇	箇所名 〇〇	所在地 千葉県〇〇市 〇〇〇	
公示履歴					
地滑り区域	公示年月	公示番号	指定・解除	理由	
土砂災害警戒区域等の重複					
箇所番号	箇所名	自然現象の種類	種類	公示年月	
④					
基盤調査履歴					
回数	調査年月	理由			
第1回	平成29年3月	基礎調査			
地すべり防止区域					
指定年月日	告示番号	区域名称	指定面積 (ha)	所管	
①					
地すべり危険箇所・危険地区・危険地					
箇所番号	箇所名	箇所区分	箇所面積 (ha)	所管	
②	〇〇	地すべり危険箇所		国土交通省	
砂防基盤図					
空中写真撮影年度	平成〇〇年度				
図化年度	平成〇〇年度				
種 類	千葉県砂防基盤図 (DM・TEN・オルソ写真)				
図面縮尺	1/2,500				
新規・修正の区分	新規				
準拠ガイドライン名	土砂災害防止法に使用する数値地図作成ガイドライン(案)第7版及び千葉県基盤図作成マニュアル	③			

千葉県

チェックポイント

- ①地すべり防止区域に該当する場合は諸元が記載されている。
- ②地すべり危険箇所、危険地区、危険地の諸元が記載されている。
- ③使用した砂防基盤図の諸元が記入されている。
 - ・砂防基盤図の撮影・図化年度、種類等が正しく記載されている。
 - ・正式名称は「土砂災害防止法に使用する数値地図作成ガイドライン(案)第7版」等
- ④土砂災害警戒区域等の重複がある場合は、自然現象の種類ごとに箇所番号等が記載されている。

様式 2-1 地滑り区域の特定図



チェックポイント

(本様式は、様式 2-2 以降におけるインデックス図的な様式として取り扱うもの)

①図の体裁について

- ・ 地滑りブロックを統合して複合ブロックによる地滑り区域を設定した場合、その地滑りブロックを統合したか分かりやすい図となっている。
- ・ 適度な縮尺で表示されている。図が小さすぎる場合は、複数枚に分割されている。

②図中に地滑り区域名が明記されている。

③方位、縮尺が明示されている。

様式 2-2(1) 地形・地質状況等

地 滑 り 区 域 調 査						調査年度	平成〇〇年度	
様式 2-2(1) 地形・地質状況等		地 滑 り の 位 置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑りブロック名		①	aj	既往調査による地滑りブロックの番号			箇所区分	地すべり危険箇所
資料調査結果								
ボーリング調査	無	ボーリング調査の実施状況						
動感観測	無	動感観測の種類						
		動感観測による変動状況						
対策施設	無	対策施設の種類						
災害履歴	無	概略の災害状況						
地形調査・現地調査結果(地滑りブロックの明瞭性・滑動性に関する事項)								
地滑りブロックの位置	地形調査結果			現地調査結果				
	地滑り地形の明瞭性	地滑りブロックの明瞭性に関する事項		地滑りブロックの滑動性に関する事項		特記事項		
		確認項目	判定値	確認事項	判定値			
頭部	明瞭	清澄崖	有	後背亀裂	無	明瞭な清澄崖と見られる段差(特記事項)が認められる		
		陥没・凹地	不明	引張亀裂	無			
		段差地形	有	構造物等の変状	-			
		その他()		その他()				
側方部(右側)	不明瞭	側方崖	無	側方亀裂	無	a1ブロックで確認され不明瞭となる		
		ガリー・浸食谷	無	側方崩壊	有			
		段差地形	有	構造物等の変状	-			
		その他()		その他()				
側方部(左側)	明瞭	側方崖	有	側方亀裂	不明	明瞭な側方崖と見られる段差地形が認められる		
		ガリー・浸食谷	有	側方崩壊	不明			
		段差地形	有	構造物等の変状	-			
		その他()		その他()				
末端部	不明瞭	末端隆起・押し出し地形	不明	隆起・押し出し現象	不明	a2ブロックで確認され不明瞭となる		
		河川の異常屈曲	不明	圧縮亀裂	不明			
		地形変換線(遷移線)	有	構造物等の変状	-			
		その他()		その他()				
地滑りブロックの明瞭性の判定	③	全体の輪郭	確定できる	判定の根拠	頭部、側方部、末端部は、空中写真と現地調査により、段差地形や地形変換線(遷移線)で判定した。			
		末端部	確定できない					
地滑りブロックの滑動性の判定		滑動が確認できない		判定の根拠	地滑りブロック全体に滑動性を示す変形現象は確認できなかった			
⑤		長さ(m)	268.0	幅(m)	130.0	層厚(m)	17.0	
地滑りブロックの形状	④	斜面最大傾斜方向		ランク区分※	C			
地滑り方向の設定根拠		農地(休耕地)、宅地						
地滑りブロックより下方斜面の状況		農地(休耕地)、宅地						

千葉県

チェックポイント

(本様式は、地滑りブロック毎に作成する)

- ①地滑りブロックについて作成され、複数ある場合は地滑りブロックごとに作成されている。
- ②資料調査結果で「有」の場合は、その内容が記載されている。
- ③明瞭性の判定、滑動性の判定が地形調査・現地調査結果と整合している。また、判定の根拠が記載されている。
- ④地滑りブロックの形状、方向の設定根拠、下方の斜面の状況が記載されている。
- ⑤ランク区分が、明瞭性の判定、滑動性の判定と整合している。

様式 2-2(2) 地形・地質状況等

地 滑 り 区 域 調 書				調査年度	平成〇〇年度	
地 滑 り の 位 置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑りブロック名	①	a1	既往調査による地滑りブロック名の番号		箇所区分	地すべり危険箇所
地形調査・現地調査結果(その他、地滑りに関連する調査事項)						
その他調査項目	確認事項	判定欄		特記事項		
地表水・地下水の状況	湧水	あり				
	湿地・池・沼	あり				
植 生 状 況	主な植生の種類	高木広葉樹、栗樹				
土地利用状況	主な土地の種類	果樹園、山林				
地形・地質状況	地滑りの分類/種類	第三紀層地滑り/風化岩滑り				
	地滑り地塊の土質	砂質土/粘性土				
	基盤岩の地質時代	新生代新第三紀中新世		②		
	基盤地質名	三浦層群 旗ヶ浦層 砂岩泥岩互層		5万分の1地質図幅(〇〇) 地質調査所(1998)		
	基盤岩の種類	細粒砂岩				
	斜面の平均勾配	25°				
地滑り方向に対する基盤岩の地質構造	受け壁					
対策施設の状況	変状の有無	-	変状状況	-		
その他特記事項(変状確認時の聞き取り調査など) 特になし ③						

千葉県

チェックポイント

(本様式は、地滑りブロック毎に作成する)

- ① 地滑りブロックについて作成され、複数ある場合は地滑りブロックごとに作成されている。
- ② 各記入欄が記載されている。
- ③ 「その他の特記事項」に様式 2-1(1)、(2)に書ききれない滑動兆候や聞き取り調査による情報、その他特筆すべき事項などが記載されている。特にない場合は、「特になし」と記載されている。

様式2-3 過去の災害実態


【災害実態が無しの場合】

地滑り区域調査

様式2-3 過去の災害実態		調査年度		平成〇〇年度		
地滑りの位置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑りブロック名	a1, a2, a3, a4	既往調査による地滑りブロックの番号		箇所区分	地すべり危険箇所	
発生日時等	発生年月日		発生時刻		発生位置	北緯
地滑りの規模等	長さ (m)		斜面勾配 (度)		土石等の高さ (m)	基礎地質名
	幅 (m)		移動土砂量 (m ³)		地滑りの種類	単位体積重量 (kN/m ³)
	移動層厚 (m)		移動距離 (m)		地滑り地塊の性状	内部摩擦角 (°)
災害発生状況						
地滑りの規模	① 過去の被災履歴無し					
	被害					
人的被害の状況	死者(人)		行方不明者(人)		負傷者(人)	(重傷者: 〇 軽傷者: 〇)
	被災戸数(戸)		(全壊・流出)		半壊:	一部損壊:
	被災家屋の構造	木造		非木造		
気象	降雨量		最大24時間雨量(mm)		最大時間雨量(mm)	
	観測所名	異常気象名				
その他特記事項						

千葉県

【災害実態が有りの場合】

発生日時等		発生年月日	平成〇〇年〇月〇日	発生時刻	夜間(詳細不明)	発生位置	北緯	〇〇度〇〇分〇〇秒	東経	〇〇度〇〇分〇〇秒
地滑りの規模等	長さ (m)	20	120m	面積 (m ²)	11000	土石等の高さ (m)		基礎地質名		第三紀黒色頁岩
	幅 (m)	10	100m	移動土量 (m ³)	75000	地滑りの種類		単位体積重量 (kN/m ³)		18
	厚さ (m)	1.5m	1.5m	土石等の移動距離 (m)	15m	地滑り地塊の性状	岩塊流しり土砂	内部摩擦角 (°)		25
災害発生状況										
地滑りの規模	④ 									
	被害									
人的被害の状況	死者(人)	0		行方不明者(人)	0	負傷者(人)	0	(重傷者: 0 軽傷者: 0)		
	被災戸数(戸)	20		(全壊・流出)	0	半壊:	10	一部損壊:	10	
	被災家屋の構造	木造		非木造						
気象	降雨量		連続雨量(mm)	600mm	最大24時間雨量(mm)	100mm	最大時間雨量(mm)	30		
	観測所名	異常気象名	〇〇台風							
その他特記事項										

チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑りブロック毎に作成する)

- ① 災害履歴がない場合、履歴がないと一目でわかる記載がされている。
- ② 様式 2-1(1)の「災害履歴」が「有」のとき、同様式の災害履歴に応じた地滑りブロックの様式がある。
(災害履歴のある地滑りブロックと本様式の枚数が整合している。)
- ③ 記録等から確認できなかった事項は「不明」または「－」と記入されている。
- ④ 人的被害の状況が、被害がない場合は「0」と記入されている。
- ⑤ 「その他の特記事項」に様式 2-3 に書ききれない情報、その他特筆すべき事項などが記載されている。特になし場合は、「特になし」と記載されている。

様式 2-4 資料調査結果図

地滑り区域調査書				調査年度	平成〇〇年度	
地滑りの位置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑りブロック名	a1, a2, a3, a4	既往調査による地滑りブロックの番号		箇所区分	地すべり危険箇所	

地すべり斜面カルテ 3		No. 5
<p>①</p> <p>調査結果等</p> <p>初期階段のカルテ①(落差約3mの頭部湧水量が認められ、部分的に裏層崩壊も認められる。②(落差約4mの頭部湧水量が認められるが、滑動の兆候は認められない。③地すべり中腹部は、緩傾斜面を主として果樹林として利用されている。</p>	<p>③</p> <p>斜面状況のスケッチ等</p> <p>作成日 年 月 日</p>	

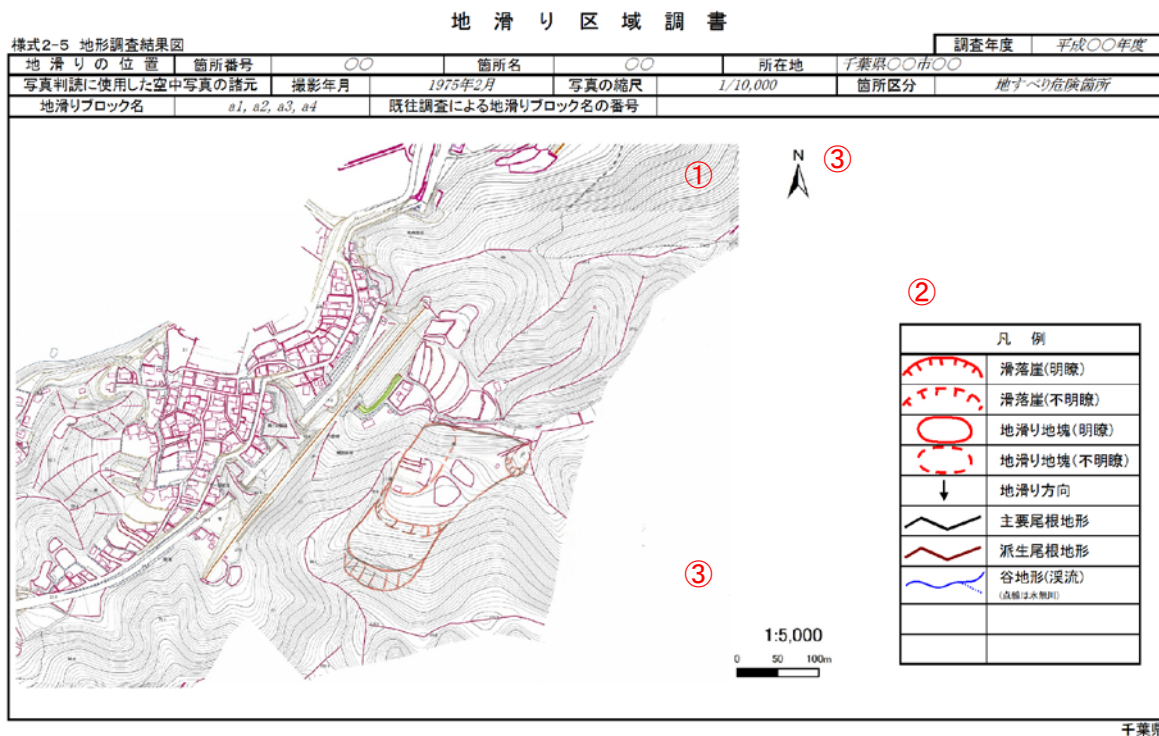
千葉県

チェックポイント

(本様式は、地滑り箇所を対象に一括して作成することを基本)

- ①既往調査、観測等による平面図および地質調査断面図等が貼付されている。必要に応じて複数枚で作成されている。
- ②使用した報告書等の引用先が記載されている。
(例：地質調査報告書名、観測報告書名、地すべり危険箇所点検結果、地すべりカルテ、地すべり防止区域台帳、災害記録、工事記録・報告書名、研究報告名など)
- ③地滑りブロック名が判読できる状態である。資料が古い場合、可能な限り判読できるように加筆する。

様式 2-5 地形調査結果図

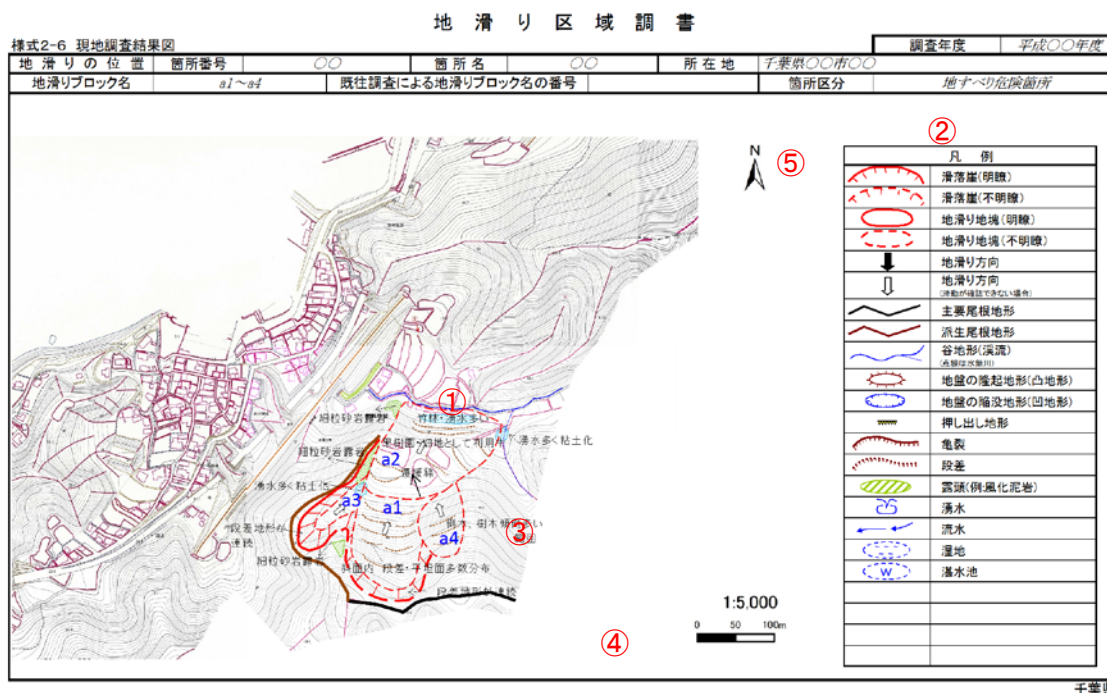


チェックポイント

(本様式は、地滑り箇所を対象に一括して作成することを基本)

- ①空中写真判読図、地形判読図、3次元地形モデルを使用したブロック抽出結果図などが貼付されている。
- ②凡例に従った地形形状が記入されている。
- ③方位、縮尺が明示されている。

様式 2-6 現地調査結果図

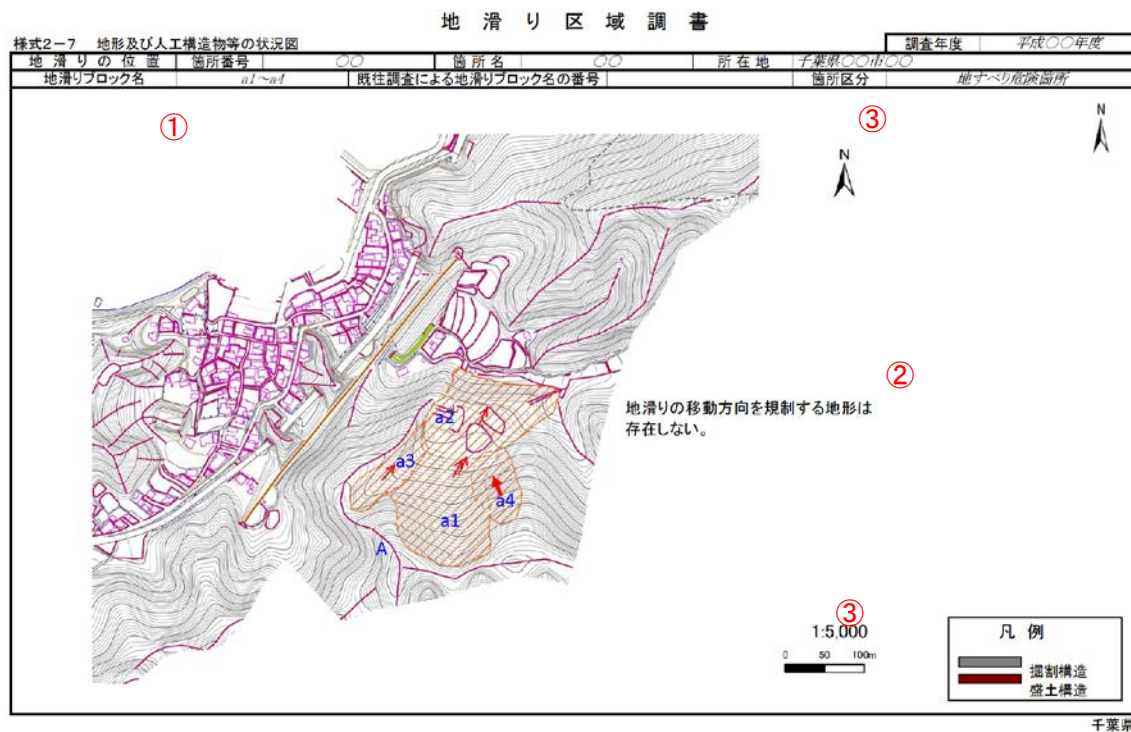


チェックポイント

(本様式は、地滑り箇所を対象に一括して作成することを基本とするが、図が小さすぎる場合は、複数枚に分割)

- ①現地調査結果に基づく最終的なブロック形状で記載されている。
- ②凡例に従った地形形状が記入されている。特に地滑り地塊の明瞭・不明瞭、地滑り方向の滑動・滑動が確認できない場合の表記がされている。滑落崖と地滑り地塊をきちんと図示する。
- ③地滑りブロックの頭部、側方部、末端部、移動方向の根拠となる地形状況等が記載されている。
- ④空中写真判読で抽出された地滑りブロックが現地調査結果で異なる形状となった場合、その根拠となる地形状況等が記載されている。
- ⑤方位、縮尺が明示されている。

様式 2-7 地形及び人工構造物等の状況図

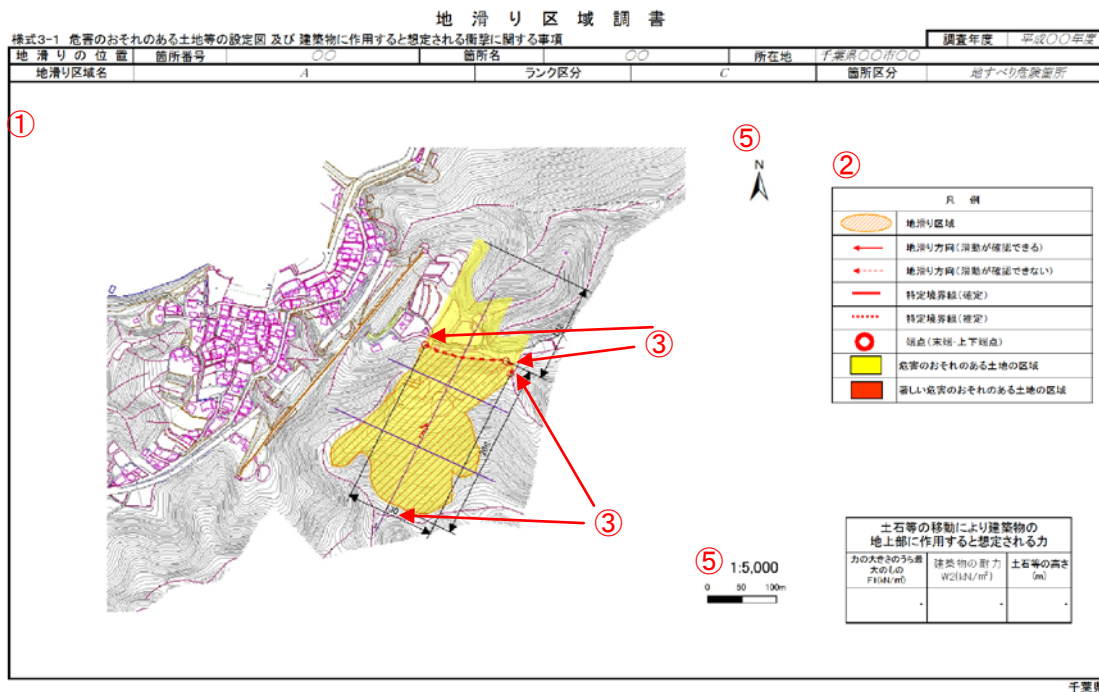


チェックポイント

(本様式は、地滑り箇所を対象に一括して作成することを基本とするが、図が小さすぎる場合は、複数枚に分割)

- ①主に地滑り末端より下方の土地にある区域設定に影響を及ぼすような地形(小山、河川、溪流、対岸の逆勾配地形など)や地滑り方向を規制するような側方部の尾根や谷などの範囲が示され、その地形状況が記入されている。
- ②該当する地形がない場合は、その旨が記載されている。
- ③方位、縮尺が明示されている。

様式 3-1 危害のおそれのある土地等の設定図及び建築物に作用すると想定される衝撃に関する事項



チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成する)

- ①設定された地滑り区域毎で作成され、複数ある場合は、区域の数に応じた枚数で作成されている。
- ②地滑り方向（滑動が確認できる・できない）、特定境界線（確定・不確定）の表記がされている。
- ③端点が4つあり、適切な地点で設定されている。
- ④著しい危害のおそれのある土地の区域が設定されている場合は、表が添付され、想定される力の大きさのうち最大の数値および土石等の高さが表内に記入されている。設定されない場合は、表が省略されている。（下表参照）

土石等の移動により建築物の地上部に作用すると想定される力	
力の大きさのうち最大のもの (kN/m ²)	土石等の高さ(m)
-	-

- ⑤方位、縮尺が明示されている。

様式 3-2(1) 危害のおそれのある土地等の調査等

地 滑 り 区 域 調 査 書

様式3-2(1) 危害のおそれのある土地等の調査等

地 滑 り の 位 置		図号番号	〇〇	図名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇	調査年度	平成〇〇年度		
地滑り区域名		A	ラック区分	C	地滑り区域の幅	箇所区分	地すべり危険箇所				
地 形 変 更		地滑り区域の長さ	296.0	地滑り区域の幅	130.0						
土地の面積		43012 m ²									
土 地 利 用		道路	水路	池沼	宅地	農地	山林	農 業			
地滑り区域内											
地滑り区域下方		○	○	○	○	○	○	農地内保護小溝あり			
人 家 戸 数		J R(m)	戸	私 鉄(m)	戸	専道不願戸数	戸				
公共施設等の状況		市町村道(m)	所	私 鉄(m)	所	専道不願戸数	戸				
公共施設等の状況		公共的建物全施設数		内、要配慮者関連施設数							
公共的建物		建物番号	種類	構造	施設数	名称	建物番号	種類	構造	施設数	名称
災害弱者関連施設		1					6				
		2					7				
		3					8				
		4					9				
		5					10				
土地の面積		- m ²									
土 地 利 用		道路	水路	池沼	宅地	農地	山林	農 業			
人 家 戸 数		全戸数	木造戸数	専道不願戸数	戸	専道不願戸数	戸				
公共施設等の状況		J R(m)	所	私 鉄(m)	所	専道不願戸数	戸				
公共施設等の状況		市町村道(m)	所	私 鉄(m)	所	専道不願戸数	戸				
公共施設等の状況		公共的建物全施設数		内、要配慮者関連施設数							
公共的建物		建物番号	種類	構造	施設数	名称	建物番号	種類	構造	施設数	名称
災害弱者関連施設		1					6				
		2					7				
		3					8				
		4					9				
		5					10				
地滑り危険計画への記載の有無		有	自主防災組織の有無	有	計画設置の有無	有					
災害の調査計の位置等		所在地	〇〇市〇〇	名称	〇〇	管理費	千圓	程度	〇〇.〇〇〇〇	程度	〇〇.〇〇〇〇
基準雨量の決定の有無		有	警戒基準	0.00雨量、避難準備の0.50雨量、避難の1.00雨量	避難基準	千圓	程度	〇〇.〇〇〇〇	程度	〇〇.〇〇〇〇	発生基準
予警報等情報伝達システムの有無		有	避難状況等								
避難経路の決定の有無		有	避難場所	〇〇小学校	所在地	〇〇	建築構造	木造			
住民への防災情報提供状況		未設定		その他							
防災訓練等の実施状況		未設定									

千葉県

チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成することが基本)

- ①土地利用が様式 3-4 の平面図と整合している。
- ②人家戸数が様式 3-3 の平面図と整合している。
- ③公共的建物、要配慮者利用施設が様式 3-3 の平面図と整合している。
- ④危害のおそれのある土地の人家戸数、公共施設、公共的建物は、著しい危害のおそれのある土地のものを含んだ数量とされていない。(危害のおそれのある土地の面積については、著しい危害のおそれのある土地の面積を含む)
- ⑤警戒避難体制に関する調査の項目が記載されている。

様式 3-2(2) 危害のおそれのある土地等の調査等

地 滑 り 区 域 調 査 書

様式3-2(2) 危害のおそれのある土地等の調査等

地 滑 り の 位 置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑り区域名	A	ランク区分	C	箇所区分	地すべり危険箇所	
調査年度 平成〇〇年度						

関係諸法令の指定状況

主に災害の防止に関する事項			
法律名	法規制区域・地区	有無	備 考
砂防法	砂防指定地	無	安房地域整備センター管内区
地すべり等防止法	地すべり防止区域	①	同上
急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律	急傾斜地崩壊危険区域	無	同上
森林法	保安林	無	国土交通省HP
建築基準法	保安施設地区	無	
宅地造成等規制法	災害危険区域	無	
	宅地造成工事規制区域	無	国土交通省HP

主に土地の現状に関する事項			
法律名	法規制区域・地区	有無	備 考
統計法	人口集中地区	無	総務省HP

主に建築や開発の動向に関する事項			
法律名	法規制区域・地区	有無	備 考
都市計画法	市街化区域	無	国土交通省HP
	市街化調整区域	無	同上
	未編引き区域	無	同上
	準都市計画区域	①	同上
	風致地区	無	同上
離島振興法	離島振興対策実施区域	無	同上
過疎地域自立促進特別措置法	過疎地域	有	総務省HP
総合保養地域整備法	特定地域	有	千葉県HP
自然公園法	国立公園	無	環境省HP
	国定公園	無	同上
	都道府県立自然公園	無	千葉県HP
都市緑地法	特別緑地保全地区	無	国土交通省HP
自然環境保全条例	原生自然環境保全地域	無	環境省HP
	自然環境保全地域特別地区	無	同上

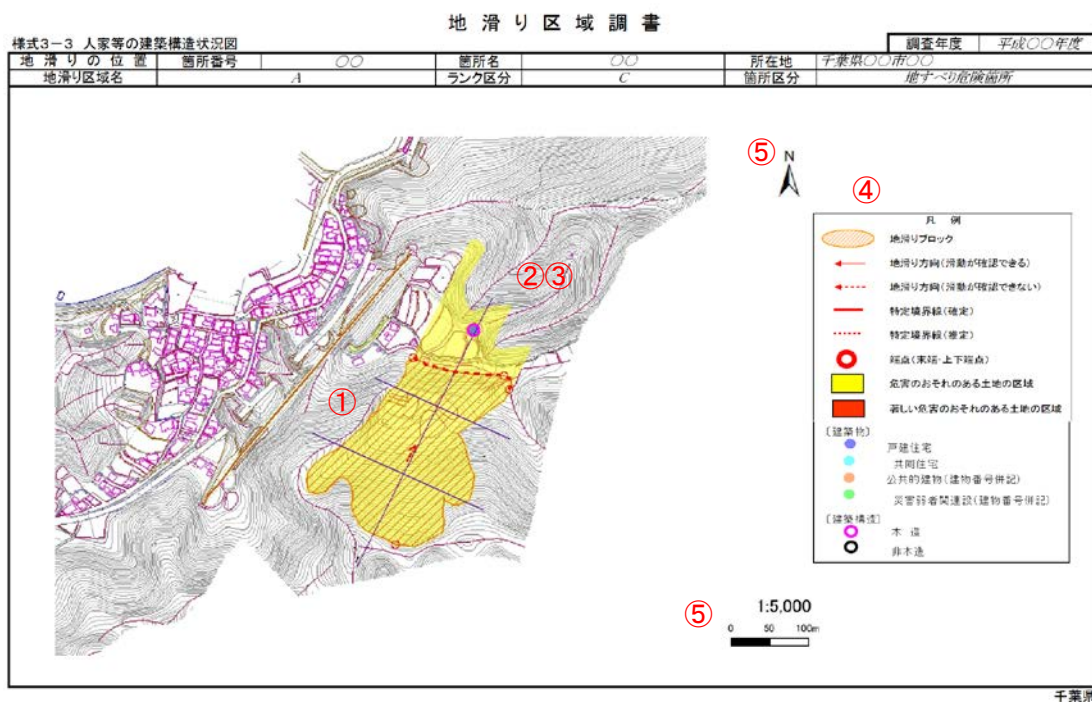
千葉県

チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成することが基本)

①法指定の「有無」が正しく記入されている。

様式 3-3 人家等の建築構造状況図

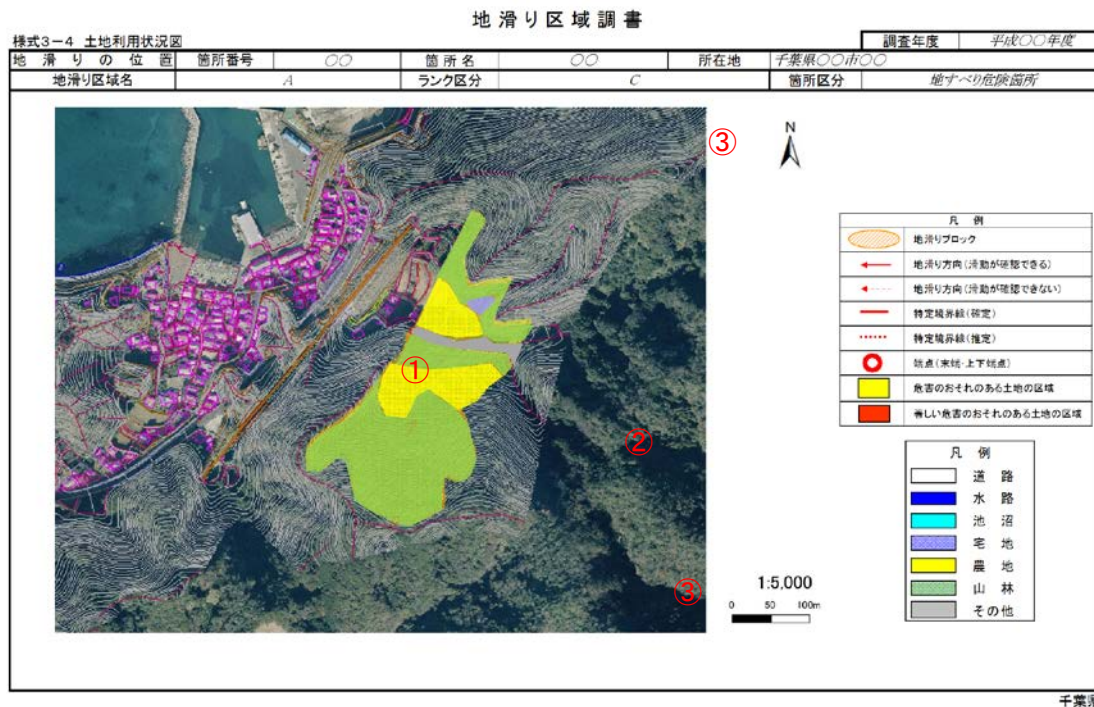


チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成することが基本)

- ①危害のおそれのある土地、著しい危害のおそれのある土地の範囲が様式 3-1 と整合している。
- ②人家等の抽出もれがない。
- ③著しい危害のおそれのある土地内の人家等の建築構造の調査もれがない。
- ④凡例が急傾斜地の崩壊、土石流のものと同一である。
- ⑤方位、縮尺が明示されている。

様式 3-4 土地利用状況図



チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成することが基本)

- ①危害のおそれのある土地、著しい危害のおそれのある土地の範囲が様式 3-1 と整合している。
- ②オルソフォトを使用している場合、空中写真撮影後の現地の地形改変状況等が記載されている。
- ③方位、縮尺が明示されている。

様式 3-5 宅地開発の状況および建築の動向

地 滑 り 区 域 調 査

調査年度 平成〇〇年度

地 滑 り の 位 置		箇所番号		箇所名		所在地		千葉県〇〇市〇〇				
市 町 村 名	〇〇市											
① 人口の経年変化		14年前(人)(7)	10年前(人)(4)	増減		5年前(人)(9)	増減		基準年(人)(1)	増減		
		(平成2年度)	(平成7年度)	人口(人)	率((4-7)/7) × 100(%)	人口(人)	率((9-7)/7) × 100(%)	人口(人)	率((1-7)/7) × 100(%)	人口(人)	率((1-7)/7) × 100(%)	
				(イ-ア)	(イ-ア)	(ウ-イ)	(ウ-イ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	
② 都市計画区域の変遷		15年前(ha)(7)	10年前(ha)(4)	増減		5年前(ha)(9)	増減		基準年(ha)(1)	増減		
				面積(ha)	率((4-7)/7) × 100(%)	面積(ha)	率((9-7)/7) × 100(%)	面積(ha)	率((1-7)/7) × 100(%)	面積(ha)	率((1-7)/7) × 100(%)	
				(イ-ア)	(イ-ア)	(ウ-イ)	(ウ-イ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	(エ-ウ)	
③ 地価の経年変化		15年前(円/m ²)(7)	10年前(円/m ²)(4)	増減		5年前(円/m ²)(9)	増減		基準年(円/m ²)(1)	増減		
				地価(円/m ²)	率((4-7)/7) × 100(%)	地価(円/m ²)	率((9-7)/7) × 100(%)	地価(円/m ²)	率((1-7)/7) × 100(%)	地価(円/m ²)	率((1-7)/7) × 100(%)	
④ 建築確認申請の状況		15年前の申請数の合計(件)(7)	10年前の申請数の合計(件)(4)	増減		5年前の申請数の合計(件)(9)	増減		出典			
				申請数(件)	率((4-7)/7) × 100(%)	申請数(件)	率((9-7)/7) × 100(%)	申請数(件)	率((1-7)/7) × 100(%)	1) 都市計画年報及び総務省統計局統計一覧より、建築調査より 2) 都市計画年報より、〇〇市聞き取りより 3) 国土交通省公示より、平成〇〇年～平成〇〇年地価調査より 4) 建築統計年報より、〇〇市聞き取りより 5) 土地利用動向調査より、平成〇〇年度～平成〇〇年度土地利用転換動向等調査より		
⑤ 農地転用の状況		15年前の申請数の合計(件)(7)	10年前の申請数の合計(件)(4)	増減		5年前の申請数の合計(件)(9)	増減		⑥			
				申請数(件)	率((4-7)/7) × 100(%)	申請数(件)	率((9-7)/7) × 100(%)	申請数(件)				率((1-7)/7) × 100(%)

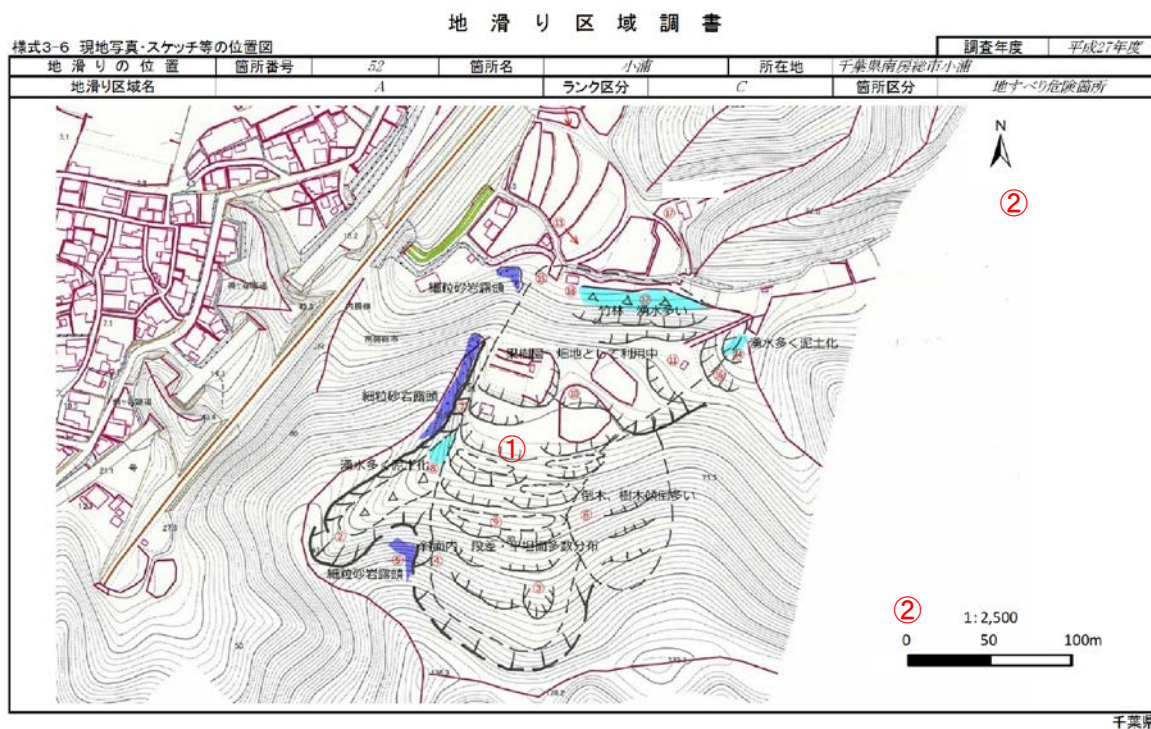
千葉県

チェックポイント

(本様式は、基本的に市町村単位で作成することが基本)

- ①人口の経年変化に数値が記入されている。
- ②都市計画区域の変遷に数値が記入されている。都市計画法の指定がない場合(なかった場合)は、「-」と記入されている。
- ③地価の経年変化に数値が記入されている。
- ④建築確認申請の状況に数値が記入されている。建築確認の申請の区分が不明の場合は、「-」と記入し、合計のみが記入されている。
- ⑤農地転用の状況に数値が記入されている。農地転用の申請がない場合(なかった場合)は「0」と記入されている。
- ⑥各項目の出典が記載されている。

様式 3-6 現地写真・スケッチ等の位置図



チェックポイント

- ①様式 3-7 の写真・スケッチ番号と整合している。
- ②方位、縮尺が明示されている。

様式 3-7 現地写真・スケッチ等

地 滑 り 区 域 調 書					調査年度	平成〇〇年度	
様式3-7(1) 現地写真・スケッチ等							
地 滑 り の 位 置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇	
地滑り区域名	A	ランク区分	C	箇所区分	地すべり危険箇所		
<p style="text-align: center;">①～⑥</p> <p>※写真の添付順序</p> <p>①地滑りブロックの輪郭を示す写真 ②地滑り滑動状況を示す写真 ③地滑り対策施設の状況を示す写真</p> <p>写真番号</p> <p>・上記①～③の区別ごとにブロック頭部の写真から 末端部の写真の順で番号を付ける。</p>							
調査対象	全景写真	写真番号	1	調査対象	頭部滑落崖	写真番号	2
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地滑りブロック下方からブロック(a,b)を望む。 ・西方に伸びる尾根との境界付近に段差地形が認められる。 ・ブロック下部でのaとbとの境界付近 ・ブロック下部では境界は不明瞭となる。 ・村道上部に比較的明瞭な地形変換線がみとめられる。 <p style="text-align: right;">など</p>			コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・馬蹄形状に高さ3m程度の滑落崖が認められる。 ・ブロック中部付近までは、頭部から連続する段差地形が認められる。 ・ブロック下部の状況 ・段差地形が形成されているが、aとbとのブロック境界は不明瞭である。 ・下方は平地地となる。 <p style="text-align: right;">など</p>		
撮影年月日：〇〇年〇〇月〇〇日				撮影年月日：〇〇年〇〇月〇〇日			

千葉県

チェックポイント

- ①添付した写真と整合する地滑り区域名が記入されている。
- ②地滑り箇所全体の状況がわかる写真が添付されている。(不可能な場合は全景的な写真が添付されている。)
- ③地滑り区域(または地滑りブロック)の頭部・左右側方部・末端部の写真が添付されている。
- ④対策施設がある場合、その状況を示す写真が添付されている。
- ⑤地滑り滑動が認められる場合、その根拠となる写真が添付されている。
- ⑥写真に地滑りブロックの輪郭、移動方向、ブロック名、河川の流下方向などが記載されている。

様式 4-1 地滑り区域設定根拠

【単独の場合】

様式 4-1 地滑り区域設定根拠						調査年度	平成27年度	
地滑りの位置	箇所番号	47		箇所名	畑3	所在地	千葉県鴨川市畑	
地滑り区域名	A		箇所区分	地すべり危険箇所				
地滑りブロック統合				地滑り区域設定				
地滑りブロック統合の有無	① 無						地滑り区域名	A
統合する地滑りブロック名	ランク区分※	地滑りブロックの形状		地滑り区域の種類・形態	地滑り区域名	地滑り区域の長さL(m)	105.0	
		長さ(m)	幅(m)			地滑り区域の幅W(m)	47.0	
						地滑りの滑動状況	滑動が確認できる	
						判断の根拠	①地滑り全体の明瞭な活動の根拠有 ②動態観測は実施していない。 →①より活動が確認できる。 なお、頭部滑寄壁、頭部陥没帯、斜面内引張亀裂が確認できた。	
						輪郭および末端部の明瞭性	確定できる	
						判断の根拠	⑥ 空中写真判読及び現地調査を行った結果、地滑りブロックの頭部、側方は明瞭だが、末端部の明瞭性は確認できなかった。現在の地すべり全体の滑動性は不明と判断される。	
						ランク区分	B	
地滑りブロック統合の根拠								
※地滑りブロックの段階でランク区分をする場合に記入								

千葉県

【統合した場合】

様式 4-1 地滑り区域設定根拠						調査年度	平成27年度	
地滑りの位置	箇所番号	52		箇所名	小溝	所在地	千葉県南房総市小溝	
地滑り区域名	A		箇所区分	地すべり危険箇所				
地滑りブロック統合				地滑り区域設定				
地滑りブロック統合の有無	① 有						地滑り区域名	A
統合する地滑りブロック名	ランク区分※	地滑りブロックの形状		地滑り区域の種類・形態	地滑り区域名	地滑り区域の長さL(m)	266.0	
		長さ(m)	幅(m)			地滑り区域の幅W(m)	130.0	
a1	C	266.0	130.0	第三紀層地すべり /風化岩地すべり	A	地滑りの滑動状況	滑動が確認できない	
a2	C	143.0	130.0	第三紀層地すべり /風化岩地すべり		判断の根拠	①地滑り全体の明瞭な活動の根拠なし ②動態観測は実施していない。 →①、②より活動は確認できない。 なお、果樹園用に斜面中に置かれた	
a3 ②③④	C	146.0	25.0	第三紀層地すべり /砂礫土地すべり		輪郭および末端部の明瞭性	確定できない	
a4	C	95.0	57.0	第三紀層地すべり /風化岩地すべり		判断の根拠	⑥ 空中写真判読及び現地調査を行った結果、地滑りブロックの頭部、側方は明瞭だが、末端部の明瞭性は確認できなかった。現在の地すべり全体の滑動性は不明。	
						ランク区分	C	
地滑りブロック統合の根拠								
移動方向はすべてのブロックが末端の河川へ調和的に斜面下方へ向かう。ブロック同士の位置関係から、a1～a4ブロックは連動して活動すると考えられる。これらから統合設定できるものと判断した。								
※地滑りブロックの段階でランク区分をする場合に記入								

千葉県

チェックポイント

- ①設定された地滑り区域毎で作成され、複数ある場合は、区域の数に応じた枚数で作成されている。
- ②地滑りブロック名、地滑り区域名が前述の各様式の名称と整合している。
- ③統合したブロックが、前述の各様式の平面図と整合している。
- ④地滑りブロックの統合がある場合、統合前の地滑りブロックの諸元が整理されている。
- ⑤地滑りブロックを統合した根拠が記載されている。
- ⑥地滑りの滑動状況、輪郭および末端部の明瞭性とランク区分が整合している。

様式 4-2 危害のおそれのある土地等の設定根拠

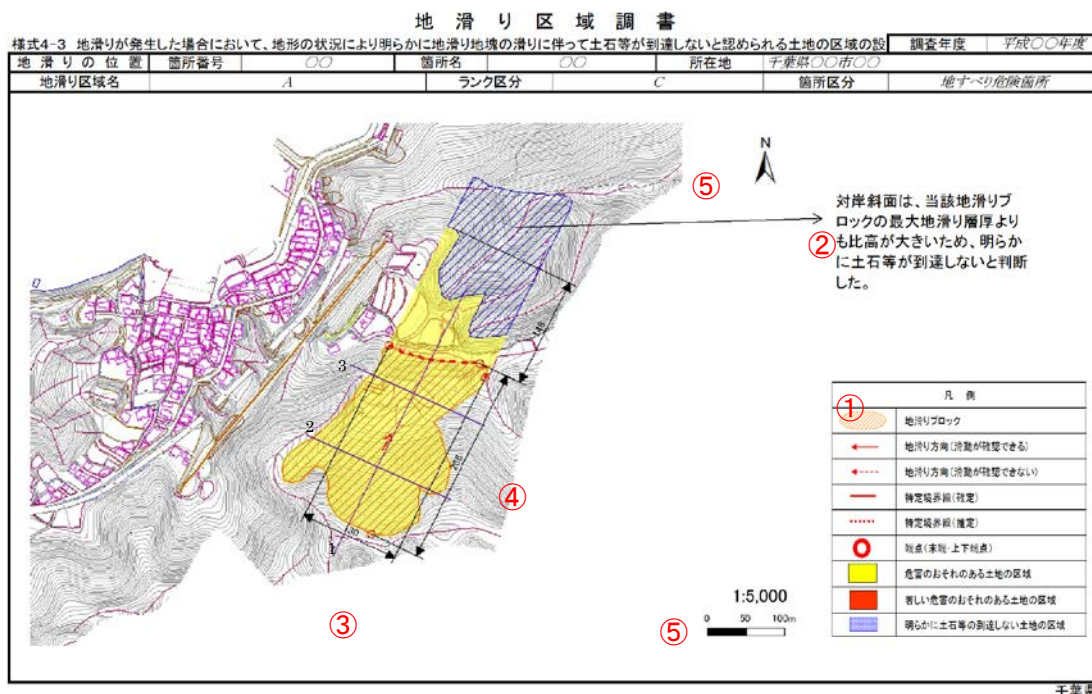
地 滑 り 区 域 調 書						調査年度
様式4-2 危害のおそれのある土地等の設定根拠						平成〇〇年度
地滑りの位置	箇所番号	〇〇	箇所名	〇〇	所在地	千葉県〇〇市〇〇
地滑り区域名	A	①	ランク区分	C	箇所区分	地すべり危険箇所
地滑り区域の地形状況						
地滑り区域の規模						地滑り方向(°)
長さ L (m)	幅 W (m)	最大幅 Wmax (m)	層厚 D (m)	地滑り層厚の設定根拠		(北0°、時計回り)
266.0	130.0	130.0	17.0	現地の地形状況③断面形状、地質状況よりすべり面を推定し、地滑り層厚を計測した。		26
地滑り区域の地質状況②						
地滑りの分類/種類	地滑り地塊の土質	基盤地質名	単位体積重量 γ (kN/m ³)	内部摩擦角 φ (°)	設定の根拠	
④ 第三紀層地滑り /風化岩地滑り	緑泥じり土	新生代新第三紀中新世 三浦層群 鏡ヶ浦層 砂岩泥岩互層	-	-	危害のおそれのある土地の設定のための、単位体積重量及び内部摩擦角は設定しない。	
危害のおそれのある土地等の設定						
地滑りの方向(°)	26	地滑り方向の設定根拠 空中⑤実測及び現地調査から、観測最大傾斜方向を滑り方向とした				
地滑りブロック先端位置の設定 (特定境界線の設定)	危害のおそれのある土地の設定 区域の設定規模			著しい危害のおそれのある土地の設定 区域の設定規模		
	長さ L1 (m)	幅 W (m)	設定の有無	長さ L2 (m)	幅 W (m)	
平坦地境界	148.0	② 130.0	無	⑦ -	-	
危害のおそれのある土地の 区域設定に関する特記事項⑥	現地調査により、当該箇所には地すべり方向を規制する条件は確認されなかったことから、地滑りブロックの移動方向と平行な方向に設定した。対岸斜面は最大地滑り層厚より比高が大きいため、明かに土石等の到達しない範囲として危害のおそれのある土地の区域から除外した。					
著しい危害のおそれのある土地の 区域設定に関する特記事項	⑦ -					

千葉県

チェックポイント

- ①地滑り区域毎に作成されている。
- ②地滑り区域の規模や層厚が様式 4-3、4-4 と整合している。
- ③地滑り層厚の設定根拠が記載されている。
- ④地滑り区域の地質状況の項目が記載されている。
- ⑤地滑り方向の設定根拠が記載されている。
- ⑥危害のおそれのある土地の区域設定に関する特記事項が記載されている。
- ⑦著しい危害のおそれのある土地が設定されている場合、規模や特記事項が記載されている。

様式 4-3 地滑りが発生した場合において、地形の状況により明らかに地滑り地塊の滑りに伴って土石等が到達しないと認められる土地の区域の設定図

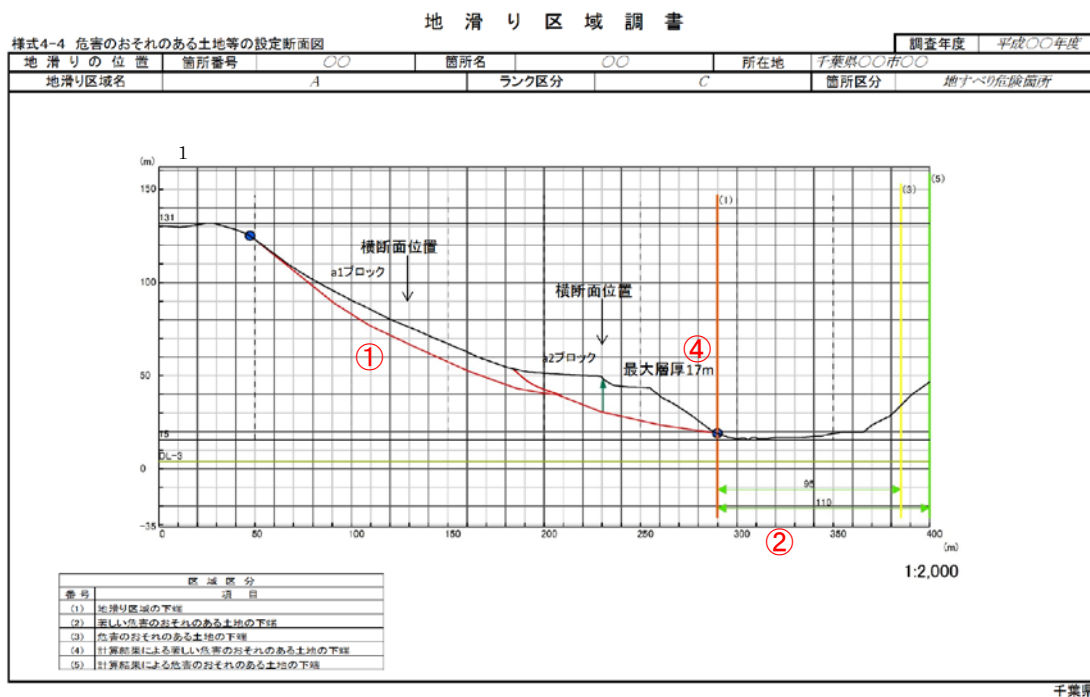


チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成する)

- ①凡例に従った表記がされている。
- ②明らかに土石等が到達しない土地の区域を設定した場合、地滑り区域毎に、その根拠が記載されている。
- ③地滑り区域の寸法が記載されている。
- ④縦断および横断測線とその番号等が記載されている。
- ⑤方位、縮尺が明示されている。

様式 4-4 危害のおそれのある土地等の設定断面図



チェックポイント

(本様式は、基本的に地滑り区域毎に作成する)

- ①縦断面図および横断面図に想定されるすべり面が表記されている。
- ②危害のおそれのある土地の区域の範囲と長さが表示されている。
- ③著しい危害のおそれのある土地の区域が設定された場合、その区域の範囲と長さが表示されている。
- ④末端下方において、逆勾配地形により明らかに土石等が到達しない土地の区域が設定された場合、その設定根拠となる具体的な数値（すべり層厚などによる推定値など）が記載されている。
- ⑤様式 4-3 と断面図番号が整合している。

様式 4-5 著しい危害のおそれのある土地等の設定に関する計算結果

【著しい危害のおそれのある土地の区域が設定されない場合】
地 滑 り 区 域 調 査

様式4-5 著しい危害のおそれのある土地等の設定に関する計算結果				調査年度 平成27年度			
地滑り箇所	箇所番号	箇所名	所在地	調査年度	調査者	調査日	調査場所
地滑り区域名	A	ランク区分	B	箇所区分	地すべり危険箇所		
計算に用いるパラメータ				計算結果(ランク区分がAの場合のみ該当)			
土石等の単位体積重量	$\gamma = 18$ (kN/m ³)	$\cos \phi = 0.999$	$1 - \sqrt{2} \sin \phi = 0.001$	$\tan \phi = 0.001$	$F1_{max} = 0.001$	$W2_{max} = 0.001$	
土石等の内部摩擦角	$\phi = 89.9^\circ$						
地滑り区域の長さ	$L = 105$ (m)						
計算式				判定			
① 移動による力(F1)	$F1 = \gamma(L-x) \left(\frac{\cos \phi}{1 - \sqrt{2} \sin \phi} \right)^2 \tan \phi$	判定		判定		判定	
ただし、 $F1 = 2\gamma \left(\frac{\cos \phi}{1 - \sqrt{2} \sin \phi} \right)^2 \tan \phi$ を超えないものとする							
F1: 移動による力が建築物に作用した時から30分間が経過した時の建築物に作用すると想定される力の大きさ(kN/m ²)							
x: 地滑りブロック下端から当該建築物までの地滑り方向における水平距離(m)							
② 通常の建築物の耐力(W2)	$W2 = \frac{106.0}{H4(8.4 - H4)}$	判定		判定		判定	
W2: 通常の建築物の耐力(kN/m ²)							
H4: 地滑り地境の滑りに伴って生じた土石等の移動によりが通常の建築物に作用する場合の土石等の高さ(m)							
H4 = (L-x)tanφ							
ただし、H4 = 2tanφを超えないものとする							
③ 著しい危害のおそれのある土地の区域	F1 > W2 となる土地の区域						
ただし、地滑り区域の下端から地滑り方向への水平距離で最大60mの範囲							

千葉県

【著しい危害のおそれのある土地の区域を設定する場合】

計算に用いるパラメータ				計算結果(ランク区分がAの場合のみ該当)										
土石等の単位体積重量	$\gamma = 18$ (kN/m ³)	$\cos \phi = 0.999$	$1 - \sqrt{2} \sin \phi = 0.001$	$\tan \phi = 0.001$	$F1_{max} = 0.001$	$W2_{max} = 0.001$								
土石等の内部摩擦角	$\phi = 89.9^\circ$													
地滑り区域の長さ	$L = 232$ (m)													
計算式				判定										
① 移動による力(F1)	$F1 = \gamma(L-x) \left(\frac{\cos \phi}{1 - \sqrt{2} \sin \phi} \right)^2 \tan \phi$	判定		判定		判定								
ただし、 $F1 = 2\gamma \left(\frac{\cos \phi}{1 - \sqrt{2} \sin \phi} \right)^2 \tan \phi$ を超えないものとする														
F1: 移動による力が建築物に作用した時から30分間が経過した時の建築物に作用すると想定される力の大きさ(kN/m ²)														
x: 地滑りブロック下端から当該建築物までの地滑り方向における水平距離(m)														
② 通常の建築物の耐力(W2)	$W2 = \frac{106.0}{H4(8.4 - H4)}$	判定		判定		判定								
W2: 通常の建築物の耐力(kN/m ²)														
H4: 地滑り地境の滑りに伴って生じた土石等の移動によりが通常の建築物に作用する場合の土石等の高さ(m)														
H4 = (L-x)tanφ														
ただし、H4 = 2tanφを超えないものとする														
③ 著しい危害のおそれのある土地の区域	F1 > W2 となる土地の区域													
ただし、地滑り区域の下端から地滑り方向への水平距離で最大60mの範囲														
x (m)	F1 (kN/m ²)	W2 (kN/m ²)	H4 (m)	判定	x (m)	F1 (kN/m ²)	W2 (kN/m ²)	H4 (m)	判定	x (m)	F1 (kN/m ²)	W2 (kN/m ²)	H4 (m)	判定
0.0	0.00	0.00	0.00	R	0.0	0.00	0.00	0.00	R	0.0	0.00	0.00	0.00	R
0.1	0.00	0.00	0.00	R	0.1	0.00	0.00	0.00	R	0.1	0.00	0.00	0.00	R
0.2	0.00	0.00	0.00	R	0.2	0.00	0.00	0.00	R	0.2	0.00	0.00	0.00	R
0.3	0.00	0.00	0.00	R	0.3	0.00	0.00	0.00	R	0.3	0.00	0.00	0.00	R
0.4	0.00	0.00	0.00	R	0.4	0.00	0.00	0.00	R	0.4	0.00	0.00	0.00	R
0.5	0.00	0.00	0.00	R	0.5	0.00	0.00	0.00	R	0.5	0.00	0.00	0.00	R
0.6	0.00	0.00	0.00	R	0.6	0.00	0.00	0.00	R	0.6	0.00	0.00	0.00	R
0.7	0.00	0.00	0.00	R	0.7	0.00	0.00	0.00	R	0.7	0.00	0.00	0.00	R
0.8	0.00	0.00	0.00	R	0.8	0.00	0.00	0.00	R	0.8	0.00	0.00	0.00	R
0.9	0.00	0.00	0.00	R	0.9	0.00	0.00	0.00	R	0.9	0.00	0.00	0.00	R
1.0	0.00	0.00	0.00	R	1.0	0.00	0.00	0.00	R	1.0	0.00	0.00	0.00	R
1.1	0.00	0.00	0.00	R	1.1	0.00	0.00	0.00	R	1.1	0.00	0.00	0.00	R
1.2	0.00	0.00	0.00	R	1.2	0.00	0.00	0.00	R	1.2	0.00	0.00	0.00	R
1.3	0.00	0.00	0.00	R	1.3	0.00	0.00	0.00	R	1.3	0.00	0.00	0.00	R
1.4	0.00	0.00	0.00	R	1.4	0.00	0.00	0.00	R	1.4	0.00	0.00	0.00	R
1.5	0.00	0.00	0.00	R	1.5	0.00	0.00	0.00	R	1.5	0.00	0.00	0.00	R
1.6	0.00	0.00	0.00	R	1.6	0.00	0.00	0.00	R	1.6	0.00	0.00	0.00	R
1.7	0.00	0.00	0.00	R	1.7	0.00	0.00	0.00	R	1.7	0.00	0.00	0.00	R
1.8	0.00	0.00	0.00	R	1.8	0.00	0.00	0.00	R	1.8	0.00	0.00	0.00	R
1.9	0.00	0.00	0.00	R	1.9	0.00	0.00	0.00	R	1.9	0.00	0.00	0.00	R
2.0	0.00	0.00	0.00	R	2.0	0.00	0.00	0.00	R	2.0	0.00	0.00	0.00	R

チェックポイント

- ①著しい危害のおそれのある土地の区域が設定されない場合、その旨が記載されている。
- ②著しい危害のおそれのある土地の区域が設定された場合、計算結果が記載されている。